

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時： 平成30年9月20日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

発表事項

1. 民間企業との事業化へ向けた大型産学連携を推進する拠点大学へ
～平成30年度 文部科学省 オープンイノベーション機構の整備事業に採択～
2. 山形大学の研究紹介 ～ 崩れやすい山や斜面を探し出す ～
3. 附属博物館で特別展「産業遺産・風穴(ふうけつ)」を開催
～山形の風穴を総合的に紹介する初の試み～
4. 附属博物館・小白川図書館特別展「山形大学における最上義光研究」開催
5. 第6回分野横断型国際スマート・システム会議（SmaSys）を開催
～第一線の研究者が集う国際会議を大学院生が運営します～

お知らせ

1. みちのくイノベーションキャンプ2018
～東北の大学連携によるキャンプ式ビジネスプランコンテスト初開催～
2. サイエンスリンク山形2018を開催します
3. 地域教育文化学部ホームカミングを開催します
4. 第4回アルファ化米粉レシピコンテストを開催します

（参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：平成30年10月4日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

学長定例記者会見（9月20日）発表者

1. 民間企業との事業化へ向けた大型産学連携を推進する拠点大学へ ～平成30年度 文部科学省 オープンイノベーション機構の整備事業に採択～

理事・副学長

おおば よしひろ
大場 好弘

学術研究院 産学連携教授/インクジェット開発センター長

さかい しんり
酒井 真理

2. 山形大学の研究紹介 ～ 崩れやすい山や斜面を探し出す ～

学術研究院 教授（地形学）

やぎ ひろし
八木 浩司

3. 附属博物館で特別展「産業遺産・風穴(ふうけつ)」を開催 ～山形の風穴を総合的に紹介する初の試み～

学術研究院 教授（地形学）/附属博物館学芸研究員

やぎ ひろし
八木 浩司

4. 附属博物館・小白川図書館特別展「山形大学における最上義光研究」開催

附属博物館長

あらみや まなぶ
新宮 学

5. 第6回分野横断型国際スマート・システム会議（SmaSys）を開催 ～第一線の研究者が集う国際会議を大学院生が運営します～

大学院有機材料システム研究科

フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院コース博士前期課程2年

おおいし えり
大石 絵里

学術研究院 准教授（フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院担当）

ふるさわ ひろゆき
古澤 宏幸

平成30年（2018年）9月20日

民間企業との事業化へ向けた大型産学連携を推進する拠点大学へ ～平成30年度 文部科学省 オープンイノベーション機構の整備事業に採択～

【本件のポイント】

- 本学申請プロジェクトが、平成30年度文部科学省「オープンイノベーション機構の整備事業」に採択。
- プロフェッショナル人材による集中的マネジメント体制を構築し、学内組織の枠を超えて優れた研究者チームの組織化を図る。
- 「本気の産学連携」を合言葉に2025年度までに民間企業からの大学への投資額を3倍とすることを目指す。



【概要】

本学が申請したプロジェクトが平成30年度 文部科学省「オープンイノベーション機構の整備事業」に採択されました。（申請件数19件のうち、本学プロジェクトを含む8件が採択。支援期間は2018～2022年度の5年間で、支援金額は1.7億円(初年度)の予定。）

経済社会のグローバル化や人工知能IoTなど新技術の発展等より、産業構造が大きく変化する中、大学においても、産業界と共同して先進的な知識集約産業を生み出すプラットフォームとなることが求められ、産学連携においては、これまでの研究者個人レベルから、組織レベルでの本格的な産学官連携が求められています。研究開発部門のみならず、製造部門・事業部門も含めた、各階層で大学との連携を行うニーズに対応するためには、大学に、これまでにない機動的なマネジメント機能を設置する必要があります。

このプロジェクトで山形大学は、山形大学オープンイノベーション機構を設立し、学長のリーダーシップのもと統括クリエイティブマネージャーを中心とした事業推進により、競争領域だけでなく、継続的な共同研究を生み出す「本気の産学連携によるオープンイノベーションエコシステム」の実現に向けた取り組みを開始します。山形大学の強みである有機材料システムの研究開発力を活かし、持続的かつ安定的に大型共同研究を創出するべく、提案・交渉・契約から進捗管理を徹底し、企業と組織対組織の本格的取り組みを促進します。

【文部科学省オープンイノベーション機構の整備事業とは】

企業の事業戦略に深く関わる大型共同研究を推進するため、大学の経営トップによるリーダーシップの下で、プロフェッショナル人材による集中的マネジメント体制を構築し、部局を超えて優れた研究者チームの組織化を図る大学の取組を支援します（支援期間5年間、平成30年度は1大学あたり1.7億円程度）。

これにより、「組織」対「組織」による本格的産学連携の実現を図り、ひいては2025年までに企業から大学等への投資を3倍増とすることを目指すものであります。（文部科学省HPより）

【山形大学オープンイノベーション機構について】

- ◆ イノベーション創出に向けた大学経営の安定と中長期展望に基づく発展を目的とし、産学官連携推進本部より競争領域を切り出して、共同研究の創出・管理と自立経営の機能を強化したオープンイノベーション機構を設立する。
- ◆ 学長のリーダーシップのもと3組織（オープンイノベーション機構、産学官連携本部、知的財産本部）の機能的連携体制により、競争領域を中心とした大型共同研究のマネジメントを可能とする体制を構築する。
- ◆ 事業視点で競争領域プロジェクトの創出に取り組み、以下の施策で自立と発展を可能にするオープンイノベーションエコシステムの確立を目指す。
 - (1) 外部事業化人材（スーパーイノベーター）の招聘
 - (2) 戦略アプローチの展開（バリューシステム・サプライチェーン分析、産学連携事業ポートフォリオ分析・マッチング分析、共同研究のコンセプト提案）

- (3) 促進システムで学内イノベータ支援（境界・融合テーマの創出、学術研究院からの最適な人材登用）
- (4) 非競争領域にある共同研究の競争領域化

【参考】平成 30 年度オープンイノベーション機構の整備事業支援対象大学一覧

No.	大学名	組織名称	研究分野例
1	東北大学	オープンイノベーション戦略機構	創薬
2	山形大学	オープンイノベーション機構	有機材料
3	東京大学	国際オープンイノベーション機構	医療機器
4	東京医科歯科大学	オープンイノベーション機構	創薬
5	名古屋大学	オープンイノベーション推進室	自動運転
6	京都大学	オープンイノベーション機構	半導体
7	慶應義塾大学	イノベーション推進本部	創薬
8	早稲田大学	研究社会実装拠点	情報通信

< 文部科学省 HP http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/openinnovation/1409027.htm >

お問い合わせ 山形大学有機エレクトロニクスイノベーションセンター事務室 内藤・土屋 電話 0238- 29- 0566 Mail kouinoel@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

オープンイノベーション機構 記者会見資料

平成30年9月20日
山形大学

オープンイノベーション機構設立の背景

● オープンイノベーションとは

企業が、他社や研究機関などの外部組織から技術やアイデアを積極的に取り入れることによってイノベーションを図る方法

● オープンイノベーションの必要性

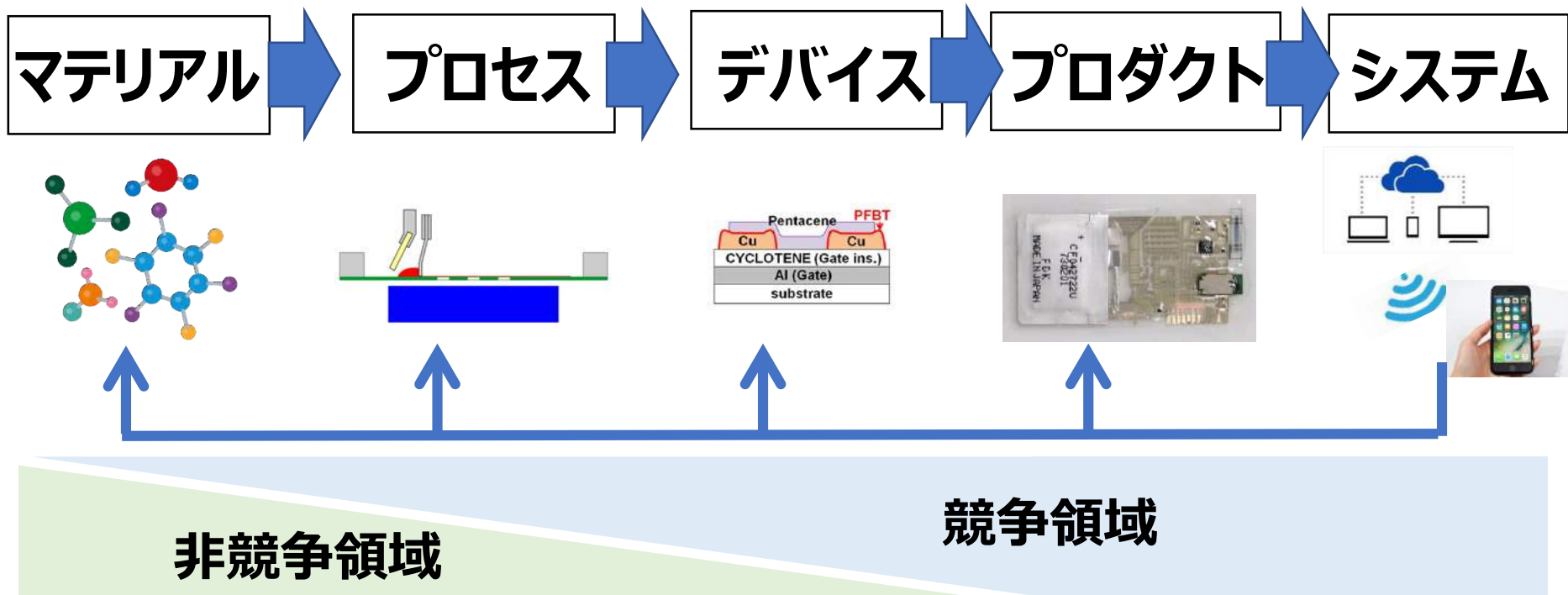
- ・ 価値の多様化した現代社会での新規事業創出の要求
 - ・ プロダクトライフサイクルの短期化による商品開発スピードの要求
- ⇒ （従来方法での困難さ）内部リソースの活用だけでは対応が困難

● 機構設立の目的

- ・ 安定と発展を可能にする大学経営の確立
 - ・ 持続的に大型共同研究を創出
 - ・ 中長期展望に基づく研究・教育の強化
- ⇒ 30年度 文部科学省「オープンイノベーション機構の整備事業」に応募
申請件数19件のうち、本学プロジェクトを含む8件が採択
支援期間は2018～2022年度の5年間で、支援金額は1.7億円(初年度)の予定

有機材料開発の特色

製品化の問題解決に出発点の材料に立ち返ったイノベーションが必要



- 垂直統合型産業の時代： 企業のノウハウが競争優位性
- オープンイノベーションの時代： 企業の高度な連携が鍵、プロセスが連携の障害
- ・材料メーカーは、プロセス・装置・デバイス試作・評価に課題
 - ・デバイスメーカー：材料・プロセス・装置・デバイス製造をアウトソース

競争領域まで大学が牽引する必要性

山形大学オープンイノベーション機構の特色

山形大学の強み：山形大学の選択と集中

- 有機材料システムでは世界最高レベルの研究開発拠点（人，物，金）
- 事業化まで見据えたプロセス設備（大面積，量産）を持つOnlyOne拠点

バリューシステム

有機材料システム

有機プロセス

サプライ
チェーン

材料

デバイス

プロダクト

システム

サービス

プロセス・設備・研究者

オープンイノベーションを呼び込む大学リソース



有機材料システム
フロンティアセンター
2016年～



有機エレクトロニクス
イノベーションセンター
2013年～



セパレーターフィルム製造
パイロットプラント

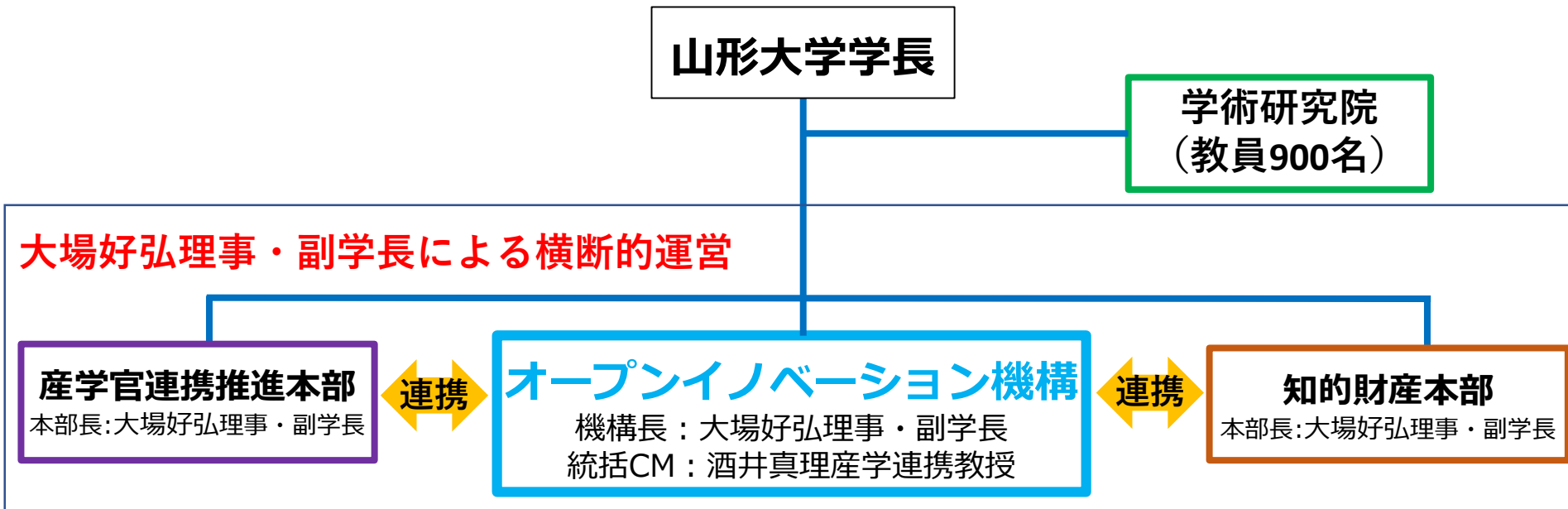


有機材料システム
事業創出センター
2018年～

山形大学オープンイノベーション機構のマネジメント

組織対組織の本格的共同研究の遂行

- 機構長として3組織（OI機構，産学官連携本部，知的財産本部）の長を兼務する大場好弘理事・副学長に責任と権限を与える体系を確立
- 全学教員からなる**学術研究院より最適な人材配置が可能**な経営の自由度を確保
- **3組織の横断的運営**による組織対組織の本格的共同研究を遂行する体制を構築



オープンイノベーション機構の全学的取り組み

山形大学学長

オープンイノベーション機構

機構長：大場好弘理事・副学長

【マネジメント部門】

統括クリエイティブ
マネージャー：酒井

- ・事業クリエイティブ・マネージャー
- ・プロジェクト・クリエイティブ・マネージャー
- ・知財・法務・技術移転・財務・人事
各クリエイティブ・マネージャー

学内横断
アンダー・ワン・
マネジメント

【プロジェクト部門】

- コンソーシアム型プロジェクト
- 特定分野型プロジェクト
- 次世代プロジェクト

連携

産学官連携推進本部

本部長：大場好弘理事・副学長

非競争領域

連携

知的財産本部

本部長：大場好弘理事・副学長

連携

学術研究院

(教員900名。分野を分けないで一括管理)
院長：学長

連携

YU-COE

(山形大学先進的研究拠点)

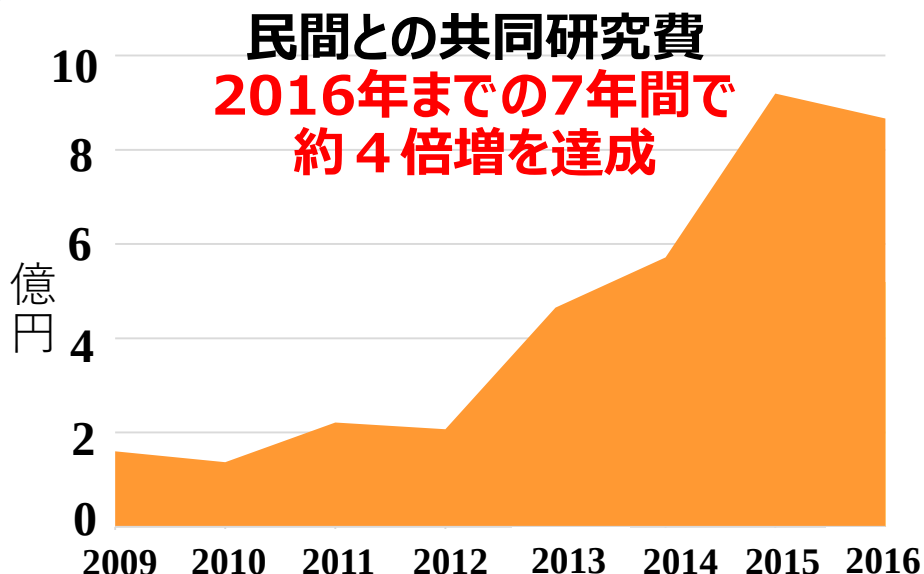
競争領域

企業

組織対組織の
本格的共同研究

山形大学オープンイノベーション機構の目標

実績



2016年11位
(2年連続)

共同研究費
約90%

有機材料システム分野

今後

オープンイノベーション機構で
マネジメントを強化

本事業の目標
2億⇒6億
競争領域
共同研究費
3倍

競争領域

2億

非競争
領域

6億

6億

10億

14億

8億

2018年

現状
8億

2022年

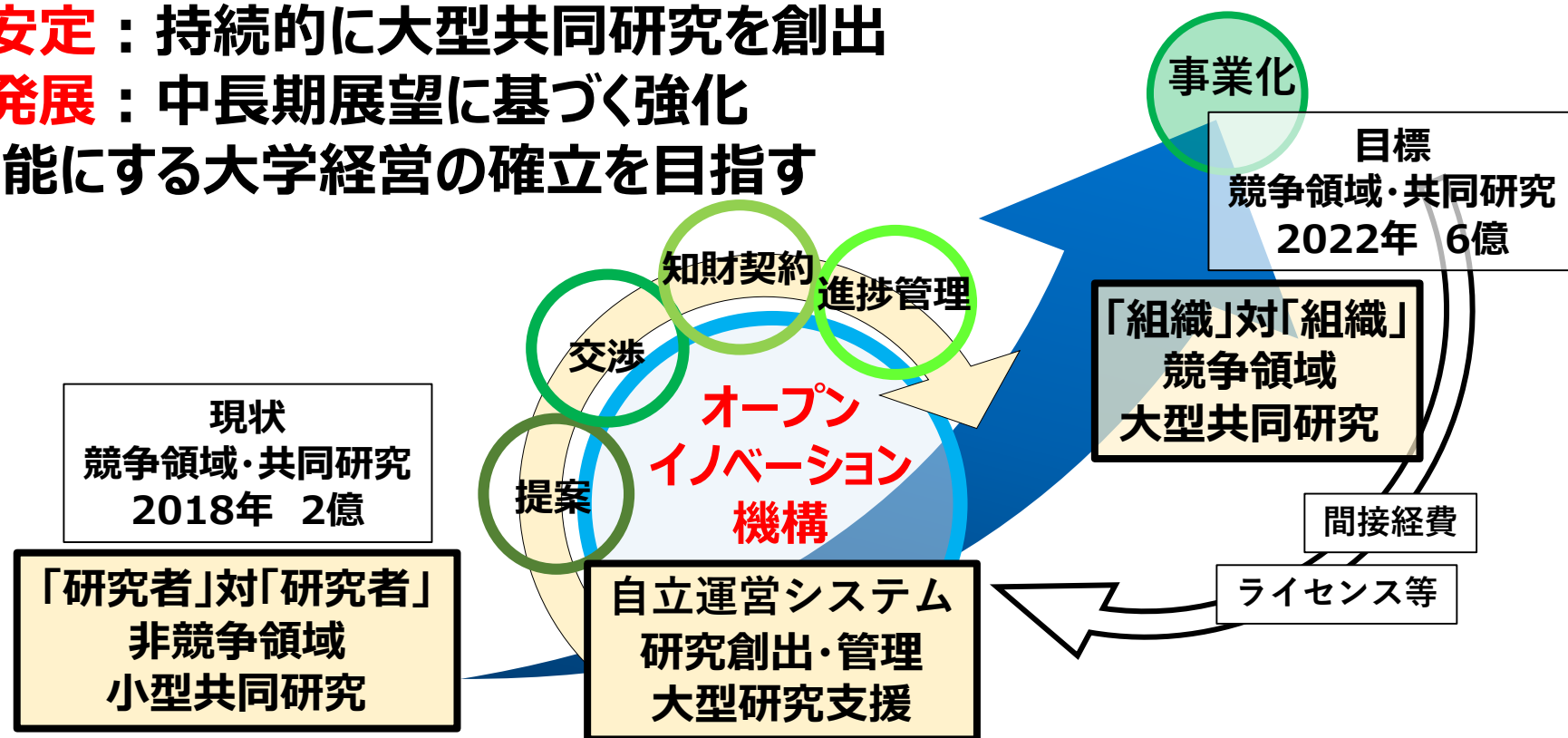
事業最終
目標14億

2025年

目標24億

本気の産学連携によるオープンイノベーションエコシステム

- **安定**：持続的に大型共同研究を創出
 - **発展**：中長期展望に基づく強化
- を可能にする大学経営の確立を目指す



経営戦略

創出

戦略的な事業・共同研究創出

ポートフォリオの空白領域・境界領域・融合領域で産学連携を創出
クリエイティブマネージャーによる組織的創出への取り組み

管理

結果にコミットするプロジェクト管理

提案・交渉・契約から進捗管理で組織対組織の関係構築

崩れやすい山や斜面を探し出す

【本件のポイント】

- 地すべりの前兆現象としての山地斜面の自重による変形をとらえる。
- 数万年オーダーで山地斜面の歪みのたまりやすい場所の地形的特徴をとらえる。
- 山地斜面の歪み集中箇所から地震時の崩壊発生を予想する。
- 地すべり地形の再活動しやすい場所を探し出し、ハザードマップ作成に活かす。



【概要】

「動かざること山の如し」という言葉がありますが、実際には山は動いています。ウソのように思われるでしょうが、我々が生きている時間スケールではその動きは見えないけれど、少し時間のコマ送りを早くすれば動いていることが見えてきます。山の斜面に形成された微小な裂け目を探し出すことでそれを知ることが出来ます。それらの小さな裂け目の集中する山の形状を、数値地形情報（DEM：Digital Elevation Model）を用いて解析することも可能となってきています。そのような歪みのたまっている山の斜面について、撮影時期の異なる空中写真や衛星画像、DEMを比較することで変形の拡大を捉えることも可能となってきています。八木浩司教授（地形学）は、日本の飛騨山脈・赤石山脈やヒマラヤ山脈等の高起伏地域で崩れやすそうな斜面の抽出に取り組んでいます。

【背景】

生命やインフラの土砂災害による被害を軽減することは社会的な課題となっています。山地内からの土砂供給は、山地斜面の地すべりや崩壊に由来することから、それらの発生箇所の把握や今後の発生箇所の予測は重要です。その第一歩は、それらの現象の予兆を探りだし、さらにそれらの発生している場所の特徴を明らかにすることです。

【研究手法・研究成果】

山がその荷重によって変形する重力性山体変形は、非常にゆっくりとした現象です。数万年で数センチというゆっくりと進む山体の重力性変形がどのように現れているかは、山頂部に線状の陥没地形が現れていることで捉えることが出来ます。それらは、線状凹地あるいは逆向き小崖地形と呼ばれたりします。それらの分布は、空中写真判読によって明らかにでき、隆起速度の大きな飛騨山地や赤石山脈などの高起伏山地に集中していることを明らかにしてきました。また、それらが集中して現れる場所は、歪みが蓄積して今後大きなせん断変形、すなわち崩壊が発生しやすいことを示しています。

従って、重力性山体変形の進んでいる場所、すなわち山体の形態的特徴を明らかにすれば、逆に崩壊等の斜面災害の発生しやすい場所を探り出すことができるはずだという仮説のもと、国土地理院によって整備された全国の10mグリッド（一部5mグリッド）数値地形情報（DEM：Digital Elevation Model）を用いて地形解析を進めました。その結果、重力性山体変形の進んでいる山体は、釣鐘型の形態を示すことが明らかにしました。さらにそれをBell Shape Index (BSI: 釣鐘度) として定義し(図1)、南アルプス南東部を対象にその分布を明らかにしました。そして重力性山体変形の分布とBSI分布を比較して、その適合性を確認しています(図2)。

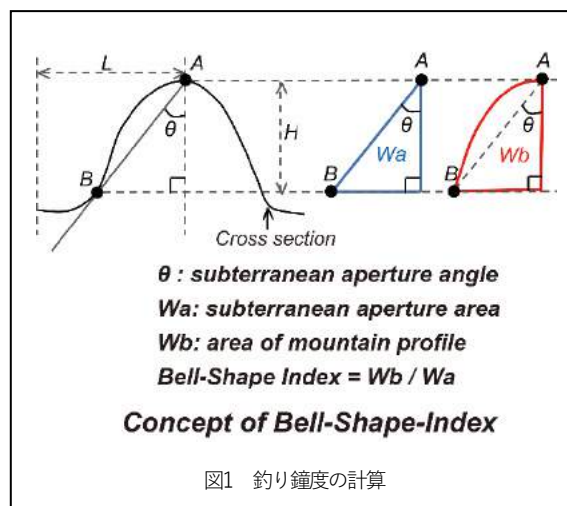


図1 釣鐘度の計算

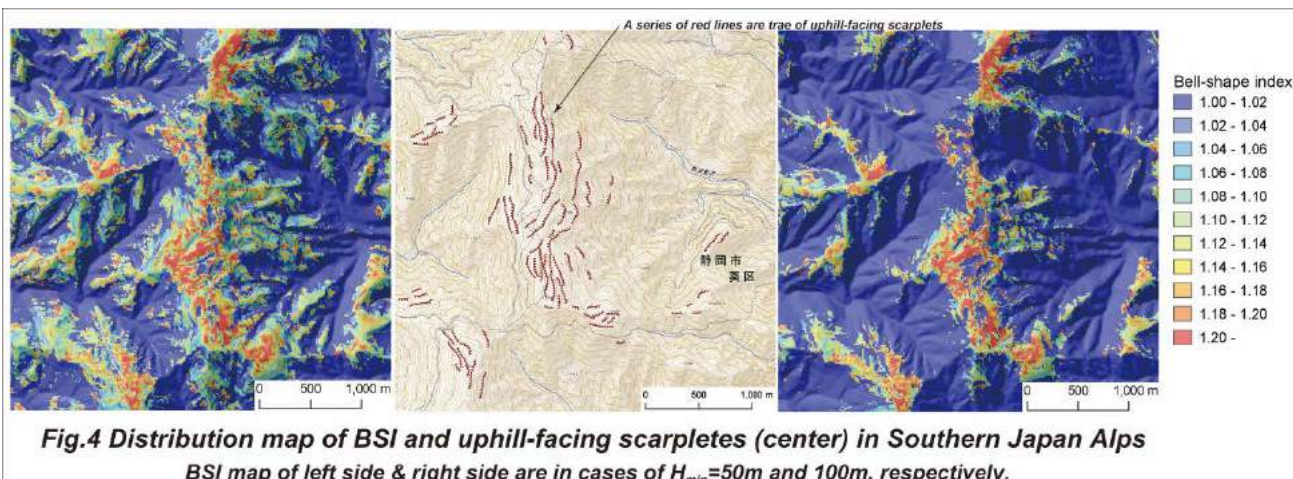


図2 静岡県山伏峠周辺山地のBSI分布と逆向き小崖・線状凹地分布との関係

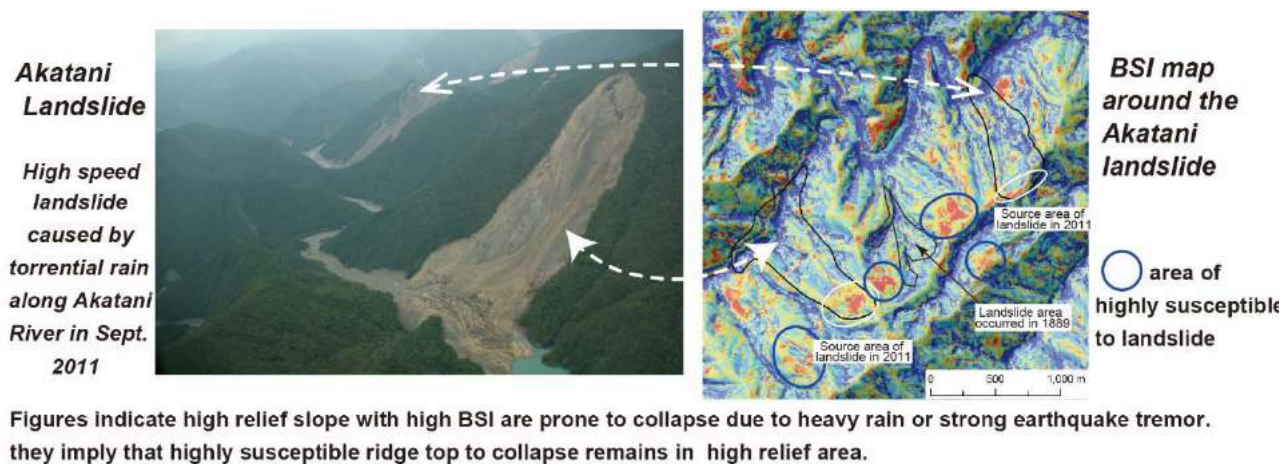


図3 奈良県五條市赤谷川で派生した深層崩壊と発災前の地形データから算出したBSI分布

実際に 2011 年 8 月の集中豪雨で深層崩壊が発生した奈良県五條市赤谷川の例について、崩壊発生前の地形条件を与えて、BSI(釣り鐘度)を計算しました。その結果、赤谷川右岸の斜面には BSI の高い頂部斜面が広く分布し、その一部が崩れ落ちたことが明らかになりました。赤谷川深層崩壊の周辺には BSI の高い頂部斜面が残されていることから、今後の集中豪雨によって崩壊がさらに拡大していくことが予想されます。

【今後の展望】

この手法は、地形データを用いて山地内で崩れやすそうな斜面を取り出すものです。いわば、エリア情報を周知するハザード・サスセプティビリティ・マップとして役立つことを狙っています。特定の重要インフラを対象にピンポイントで地すべりや崩壊発生箇所を予測するには、撮影時期の異なる空中写真や、衛星画像や衛星からのレーダー観測による監視して行く必要があります。そして抽出された危険エリアに対して現地で保全対象周辺の地下構造や地下水の状態を調べる必要があります。それらによって、どの斜面に対する対策を優先するかの方針決定が可能になります。

既存の地すべり地において、どの斜面がもっとも動き安い条件を持っているかという課題に対しては、地すべりの素因や誘因を組み込んだ AHP(階層分析法)の導入によって、危険箇所の順位付けを行い、ハザードマップの作成を行っています。それらは国土交通省や JICA のプロジェクトで導入されています。

以上の研究は以下の外部資金を導入して進めています。

科学研究費補助金基盤(C)16K01211-00(代表者:八木浩司), 同基盤(B) 16H03149-01(代表者: 弘前大学・檜垣大助教授), 同基盤(C)17K01234(代表者: 日本大学・佐藤浩准教授), 東京地学協会研究助成平成 30 年度

お問い合わせ

学術研究院教授(地形学) 八木 浩 司

TEL 023-628-4393

メール yagi@e.yamagata-u.ac.jp

平成30年（2018年）9月20日

附属博物館で特別展「産業遺産・風穴^{ふうけつ}」を開催 ～山形の風穴を総合的に紹介する初の試み～

【本件のポイント】

- 山形で初となる風穴展の開催
- 山形の風穴に関する最新の研究成果をもとに、風穴が山形の近代化を推し進めた産業遺産であったことを明らかにします
- 講演会と現地見学会によって多角的に風穴に迫ります



月山風穴

【概要】

10月20日（土）より、山形大学附属博物館 2018 年度特別展「産業遺産・風穴 近代日本を支えた自然資源活用の知恵」を開催します。風穴研究者による講演会（11月2日（金））と、風穴見学会（11月3日（祝・土））山形県指定天然記念物「ジャガラモガラ」と上山市竜沢風穴（要事前申込）も実施します。

【風穴とは】

風穴は地すべりや崩壊によって崩れ落ちてきた岩くず・岩塊※1 がたまった場所などに生じ、夏は冷風が吹き出すことから、氷・漬け物などの天然貯蔵庫として利用されてきました。明治時代には蚕種（蚕の卵）の低温貯蔵場所として整備された施設が全国各地でつくられ、日本の製糸業を支えました。

現在では山の中に放棄され、場所の特定すら難しく、同時に、人びとの記憶からも消え去ろうとしています。本展では、山形県内の風穴、特に月山や高畠での養蚕業と風穴の結びつきに焦点をあてます。風穴を産業遺産として捉え、日本の産業振興に貢献した先人たちの知恵を山形の方々に伝えることを目的とします。

【展示内容】

☆疑似立体地形図や断面図で風穴の構造を解説

山形を代表する風穴であるジャガラモガラを例として、風穴がどのような場所に出来やすいかを疑似立体地形図や断面図から解説するとともに、風穴周辺に形成される特殊な植物群落について示します。

☆風穴に吹き込む風の冷たさ

夏季風穴から吹き出す風がどれほど冷たいかを実際の観測値をもとに示します。そして、天然の冷蔵庫・冷源が如何にして形成されるかを、世界文化遺産に指定されている荒船風穴を例に、大迫力の断面図とともに紹介します。

☆養蚕業と風穴、先人たちの知恵

蚕種（蚕の卵）低温貯蔵施設として山形の養蚕業を支えた風穴の分布をパネルで紹介しします。みなさんの身近な場所にも養蚕業と結びついた風穴があったことを確認出来ます。さらに、低温貯蔵施設としての風穴から養蚕農家に郵送のために実際に使われた蚕種輸送箱を展示します。

山形の蚕種保存施設の代表例である月山風穴（西川町沼の倉）の大正期の画像資料や3Dアニメーション映像を放映します。同時に、沼の倉在住で月山風穴の利用についてご存知の方からのインタビューも放映します。

天然の低温貯蔵施設としての風穴は既にその役割を終ったかのように思われています。しかし風穴が2011年東日本大震災以降、究極の電源喪失※2にも耐えられ、ゼロエミッション※3低温貯蔵施設として脚光を浴びています。ここでは震災以降、九州大学に保存されている蚕種が遠く長野県内の風穴に保存されている例を紹介します。

【開催期間・会場】

会場：山形大学附属博物館

会期：平成30年10月20日（土）～11月13日（火）

開館時間：9：30～17：00（土日は11：00～17：00）

休館日：11月3日（祝・土）、4日（日）、10日（土）、11日（日）

※用語解説

1. 岩塊：ゴロゴロと転がっている人よりも大きな岩
2. 電源喪失：地震などで発電施設が損傷し広域的かつ長期間電気の供給が途絶えるような事態
3. ゼロエミッション：二酸化炭素を放出しないエネルギー利用

お問い合わせ

山形大学附属博物館

学術研究院 教授 八木浩司 / 准教授 佐藤 琴

TEL 023-628-4930 メール hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



上山市竜沢風穴

産業遺産

風穴

ふう けつ

近代日本を支えた自然資源活用の知恵



蚕種紙の低温貯蔵庫として使用された月山風穴 大正時代撮影 個人蔵

講演会

11・2(金)
17:00 ~ 19:10

天然冷蔵倉庫としての風穴利用と山形の風穴

講師 清水長正（駒澤大学文学部 非常勤講師）

会場 飯塚 聡（群馬県立吉井高等学校 教頭）

事前申込不要 聴講無料

風穴見学会

11・3(土・祝)
8:00 ~ 16:00

天童市ジャガラモガラと
上山市竜沢風穴を見学します

参加費 二〇〇〇円（バス代ほか）

事前申込必要 定員20名（先着順）

詳細および申込方法は裏面をご覧ください

同時開催

山形大学附属博物館・小白川図書館特別展
山形大学における最上義光研究
10.6(土) ~ 11.14(水) 休館日なし
会場：山形大学小白川図書館
入場無料

2018 年度山形大学附属博物館特別展
協力 NPO地域づくり工房
主催 山形大学附属博物館

お問合せ

山形大学附属博物館

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12
TEL 023-628-4930 FAX 023-628-4668
E-mail hakukan@kj.jm.yamagata-u.ac.jp

2018 年

10.20(土) ~ 11.13(火)

休館日 11月3日(土・祝)、4日(日)、10日(土)、11日(日)

開館時間 9:30 ~ 17:00 会場 山形大学附属博物館 入場無料

アクセス J R山形駅からベニちゃんバス「東くるりん 東原町先回りコース」で「山大前」下車（所要時間約9分）
山形大学専用シャトルバスも運行中です（所要時間約12分）運行時刻は山形大学HPをご確認ください

フェス7
国立大学2018

山形大学
Yamagata University

産業遺産 風穴

ふう けつ

近代日本を支えた自然資源活用の知恵

風穴は地すべりによって岩くずが堆積した場所などに生じ、夏は冷風が吹き出すことから、氷・漬け物などの天然貯蔵庫として利用されてきました。明治時代には蚕の種（卵）の低温貯蔵場所として整備された施設が全国各地でつくられ、日本の製糸業を支えました。

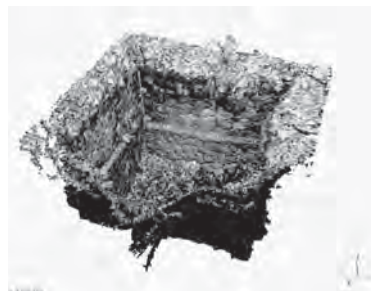
現在では山の中に放棄され、場所の特定すら難しく、同時に、人びとの記憶からも消え去ろうとしています。本展では、山形県内の風穴、特に月山や高畠での養蚕業と風穴の結びつきに焦点をあてます。風穴を産業遺産として捉え、日本の産業振興に貢献した先人たちの知恵に想いを馳せる機会となれば幸いです。



天童市ジャガラモガラ



西川町月山風穴



月山風穴の3D画像



上山市竜沢風穴

●講演会「天然冷蔵倉庫としての風穴利用と山形の風穴」

11月2日（金） 17:00～19:10

講師：清水長正（駒澤大学文学部 非常勤講師）

飯塚 聡（群馬県立吉井高等学校 教頭）

会場：ゆうキャンパス・ステーション

事前申込不要・聴講無料

●風穴見学会「天童市ジャガラモガラ、上山市竜沢風穴」

11月3日（土・祝） 8:00～16:00（少雨決行）

山形大学小白川キャンパスからマイクロバスに乗り、
天童市ジャガラモガラと上山市竜沢風穴を見学します（荒天時変更有）

講師：清水長正（駒澤大学文学部 非常勤講師）

八木浩司（山形大学地域教育文化学部 教授）

沢 和浩（フロラ山形・山形県植物調査研究会）

参加費：2,000円（バス代、保険料、資料代を含む）当日集金します

定員：20名（先着順）

申込方法：右のフォームにご記入のうえFAXにてお申込みください

電話またはメールでも受け付けます

風穴見学会申込フォーム

ご記入いただき、FAXにてお申込みください

ふりがな お名前	
男・女	年 月 日生
ご住所 〒	
電話番号	
メールアドレス	

今回お知らせいただいた個人情報はこの催しの事務処理にのみ使用します

FAX 番号 023-628-4668

お問合せ・お申込み

山形大学附属博物館

電話受付時間は平日 9:30～17:00 です

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

TEL 023-628-4930 FAX 023-628-4668

E-mail hakukan@kj.jm.yamagata-u.ac.jp

PRESS RELEASE

平成30年（2018年）9月20日

附属博物館・小白川図書館特別展「山形大学における最上義光研究」開催

【本件のポイント】

- 山形大学の長年にわたる義光研究の成果を地域へ還元する展覧会
- 最上義光歴史館所蔵の義光文書など、関連資料や山形大学教員の研究図書をご紹介
- この特別展は、公開講座「山形大学の最上義光研究」に併せて開催



【概要】

図『山形県史談』より最上義光肖像画（最上義光歴史館提供）

平成30年度附属博物館・小白川図書館特別展「山形大学における最上義光研究」を開催します。近年の最上義光研究はめざましい成果をあげています。山形城のお膝元にある山形大学の研究者が、これらの研究を牽引してきました。長年にわたる研究蓄積の精華を、最上義光歴史館所蔵資料や研究成果の著作を展示して、ご紹介します。

【展示内容】

☆義光文書の世界

最上義光研究の基礎となる義光文書には、判物¹・印判状²・書状があります。これらの義光文書は、現時点で300点以上も確認されています。本展では、最上義光歴史館所蔵の印判状・書状を展示して、義光文書の世界をご紹介します。

☆義光の文芸活動

義光は、当時の知識階級の文学的な娯楽である連歌に優れていました。連歌とは、源氏物語や古今和歌集以下の古典を背景にしながら、一座の人々と静寂優雅な境地を楽しむものです。本展では、義光自身が連歌の決まりを一冊の本にまとめて解説した、最上義光歴史館所蔵の『最上義光注 連歌新式』などを展示し、義光の文芸活動に迫ります。

☆本学秘蔵コレクション

附属博物館には、初代館長の長井政太郎が収集した最上義光関連資料が収蔵されています。その中には、米沢出身の郷土史家・伊佐早謙が著した、最上義光に関して最も早い時期にまとめられた資料集『新編最上義光事歴』などがあります。これからの義光研究で重要となる資料も併せてご紹介します。

☆本学関係者の研究図書

本展では、本学創立以来の現在に至るまでに刊行された本学名誉教授および現職教員・卒業生による義光関連書籍をご紹介します。

【開催期間・会場】

会場：小白川図書館1階

会期：平成30年10月6日（土）～11月14日（水） 会期中無休

開館時間：平日8時15分～21時、土・日11時～18時

（※10月8日（月）は11時～18時、15日（月）は8時45分～17時）

※用語解説

1. 判物：印章の代わりに花押が据えられた文書
2. 印判状：文書の奥や袖に印章（印判）が据えられた所領の安堵、宛行、寄進を内容とする文書

お問い合わせ

小白川キャンパス事務部総務課 山形大学附属博物館（因幡敬宏）

TEL 023-628-4930 hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

【関連企画】平成 30 年度山形大学附属博物館公開講座「山形大学の最上義光研究」

会 場：山形大学小白川キャンパス人文社会科学部 1 号館 2 階 201 教室

日 時：10 月 13 日（土）、10 月 20 日（土）、10 月 27 日（土）※いずれも 13 時 15 分～16 時まで

内 容：第 1 回 10 月 13 日（土）

最上義光の近世城下町建設とその遺産（横山昭男 名誉教授）

最上家ゆかりの絵画（佐藤 琴 准教授）

第 2 回 10 月 20 日（土）

最上義光再考（松尾剛次 教授）

最上義光連歌の世界（名子喜久雄 名誉教授）

第 3 回 10 月 27 日（土）

山寺立石寺の最上義光霊屋について（永井康雄 教授）

最上義光をめぐる－人物画像・冬期遠征・『最上義光事歴』等－（伊藤清郎 名誉教授）

募集人員：30 名

受 講 料：2,000 円

申し込み・お問い合わせ：山形大学附属博物館（TEL.023-628-4930）

平成30年（2018年）9月20日

第6回分野横断型国際スマート・システム会議（SmaSys）を開催 ～第一線の研究者が集う国際会議を大学院生が運営します～

【本件のポイント】

- 有機ELや成形加工、情報などを用いた高機能（スマート）な材料・技術について、分野横断的に議論する国際会議を米沢で開催。
- フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院（以下、フレックス大学院）の2年生（博士前期課程2年生）が会議を運営。
- 国内外で最先端の研究に取り組む招待講演者9名のほか、本学の学生や高専の学生、海外の学生が研究成果を発表予定。



【概要】

第6回分野横断型国際スマート・システム会議「SmaSys 2018」を山形大学工学部（米沢キャンパス 11 号館 未来ホール）で、10 月 11 日（木）・12 日（金）に開催します。有機エレクトロニクス分野の第一線で活躍中のマシュー・シュエット・ホホワイト氏をはじめ、有機 EL や成形加工、情報など、多岐にわたる分野の研究者が招待講演発表を行います。今年度で6 回目の開催です（昨年度は世界 6 ヶ国から 275 名が参加）。

文部科学省博士課程教育リーディングプログラムの「フレックス大学院生（6 期生、博士前期課程 1 年生）」を含む、学内外の理工学系研究者・学生が、口頭発表およびポスター発表を行う予定。会議はすべて英語で行われます。また、運営はフレックス大学院生（5 期生、博士前期課程 2 年生）が中心となって行います。

国際スマシス会議 HP： <http://smasys.yz.yamagata-u.ac.jp/2018/>

【背景】

国際的に活躍できる人材の育成は喫緊の課題であり、山形大学フレックス大学院は、その最先端のプログラムとして評価されています。この中で、フレックス大学院の教育を深化させつつ、山形大学全体および周辺の学校にも国際的な人材を育成する教育を提供し、さらに世界の研究の最先端を学ぶ機会として国際会議「スマシス（SmaSys）」を年に一度開催しているものです。

【目的等】

国際的に活躍する人材を育むため、地域の大学や高専の研究者が国際的な発表を行う場として、また共に先端研究を学ぶ機会として開催しています。理工学系研究者・学生は、米沢市にしながら、国際会議での英語・口頭発表を経験できます。また大学院生にとっては、国際会議の計画・準備に主体的に取り組むことで、コミュニケーション・企画力・国際感覚を磨く機会にもなっています。今回の開催にあたっては、フレックス大学院生 10 名が 4 月から準備を進めてきました。

※用語解説

1. スマート・システム：新しい高機能（スマート）な材料や技術、デバイスが開発され、今日の生活や社会に広がっている。これらの技術を分野横断的に繋げたスマート・システム（高機能な系）についての議論を、国際会議スマシス（SmaSys）で展開する。
2. フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院：文部科学省博士課程教育リーディングプログラムの平成 24 年度採択事業。創造性と主体性を備え、「フロンティア有機材料システム分野」に挑戦する価値創成グローバルリーダーの育成を目的としている。

お問い合わせ

学術研究院 助教（フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院担当） 牧野真人
TEL 0238-26-3839 メール m-makino@yz.yamagata-u.ac.jp
山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院 事務室
TEL 0238-26-3834 メール ifront@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成30年9月20日
山形大学

* 詳細は別添の資料をご覧ください。

1. みちのくイノベーションキャンプ2018

～東北の大学連携によるキャンプ式ビジネスプランコンテスト初開催～

東北の産業活性化・復興を目的に、東北地域の国公立大学が連携してキャンプ式のビジネスプランコンテストを初めて開催します。

日程：平成30年11月2日（金）～ 4日（日）の3日間

場所：東北大学 青葉山キャンパス内 青葉山コモンズ

2. 「サイエンスリンク in 山形2018」を開催します

大学生と高校生が「子ども達に大好きな科学の楽しさを伝えたい」という思いで、科学体験イベントを企画しました。山形大学、山形県立東桜学館高校、東北大学のほか、東京の大学からも出展します。

日時：平成30年10月13日（土）10:00～17:00

場所：山形大学小白川キャンパス体育館

参加無料・事前申込不要

3. 地域教育文化学部ホームカミングを開催します

山形大学地域教育文化学部の前身である教育学部卒業生を対象に、現在の地域教育文化学部の様子を紹介し、交流を図ります。

日時：平成30年10月8日（月・祝）10:00～13:30

場所：ホテルキャッスル・3Fロビー

4. 第4回アルファ化米粉レシピコンテストを開催します

水を加えるだけでネバネバして、炊かなくても食べられる特殊な米粉（アルファ化米粉）を使ったレシピコンテストを開催します。

応募締切：平成30年10月29日（月）必着

本 選：平成30年12月1日（土）

会 場：山形県立米沢栄養大学

<参考> ウェブマガジン「ひととひと」では今大会の実行委員の学生について取り上げています。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/hitotohito/learn/201807301/>



※裏面へ続く

※これまでの定例会見でお知らせしたもので、開催が迫っているイベント

◎東北6県の大学・短大によるシンポジウム

「東北地方にある大学短大の魅力的な教育の取組」

日 時：9月22日（土）13：30～16：30

場 所：山形大学小白川キャンパスA3（基盤教育3号館312教室）

◎農場フェスティバル ～HAPPY SUNSHINE 米ニケーション!!～

日時：平成30年9月29日（土）10：00～15：30

場所：山形大学農学部 附属農場（鶴岡市高坂字古町5-3）

入場無料・ご飯無料

PRESS RELEASE

平成30年（2018年）9月20日

「みちのくイノベーションキャンプ2018」 ～東北の大学連携によるキャンプ式ビジネスプランコンテスト初開催～

【本件のポイント】

- 東北の産業活性化・復興を目的に、東北地域の国公立大学が連携してキャンプ式のビジネスプランコンテストを初開催。
- 起業・創業等を目指す学生・研究者の起業家育成、事業の新展開を望む大学発ベンチャー企業などの協創機会の場を提供。
- これまでの各地域単独から脱皮し、東北地域の大学、行政、企業が連携して取り組むことでみちのくから一大変革を起こす。



【概要】

山形大学と東北大学（共催、主管機関）は、東北地域の他大学と連携してキャンプ式ビジネスプランコンテスト「みちのくイノベーションキャンプ2018」を初めて開催します。これまで、各地域でそれぞれ起業家育成の取り組みを行ってきましたが、起業家が育っていない、有望なシーズが見えてこない、大きな投資案件が少ないなどといった課題を共通に抱えていました。今回開催する「みちのくイノベーションキャンプ2018」では、学生・研究者による起業・創業の機会提供、各大学の有望シーズ技術の発掘や社会実装促進への機会提供等を行います。

大学、行政、企業が連携して、東日本大震災以降まだ復興の道半ばにある東北に、新たな息吹を吹き込み、地域を活性化するための一大イベントです。

- 日時：2018年11月2日（金）～4日（日）の3日間
(11/2：11:00～21:00、11/3：9:30～21:00、11/4：9:00～17:00)
- 会場：東北大学 青葉山キャンパス内 青葉山 commons
(宮城県仙台市青葉区荒巻青葉 468-1)
- 内容：①始動部門：定員50チーム
大学・研究機関等に在籍する学生、研究者を中心として、ビジネスアイデアを具体化させ、これから起業、新規事業を開始したい方を対象としたピッチコンテスト部門。
 - ・11/2～3：ビジネスプランメンタリングおよび予選プレゼン
 - ・11/4：決勝プレゼン、表彰
- ②協創部門：定員20チーム
大学発ベンチャー、学内インキュベーション施設に所属する企業、または、本キャンプに参加予定の国公立大学と現在共同研究を行っている企業を中心として、大企業や地元企業と共同研究・開発、事業展開を狙いたい方を対象としたビジネスマッチング部門。
 - ・11/2～3：参加者・協創パートナー間でのディスカッション
 - ・11/4：参加者によるプレゼン、マッチング
- 参加費：無料
- 公式 Web サイト：<http://ur0.biz/LNDC>
- 運営：主催 山形大学、東北大学
共催 （予定：弘前大学、秋田大学、福島大学、東北学院大学）
※今後、共催同意をいただいた国公立大学を追加予定
協賛 医療法人おかもと腎クリニック、株式会社菊池製作所、シナプテック株式会社、東英工業株式会社、リゾートイン エルミタージュ
後援 （予定：文部科学省 EDGE-NEXT、経済産業省東北経済産業局、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、一般社団法人東北経済連合会、独立行政法人中小企業基盤整備機構東北支部、一般社団法人 Mt.Fuji イノベーションエンジン、宮城大学、会津大学）
※今後、後援同意をいただいた国公立大学を追加予定

みちのく イノベーション キャンプ2018

挑戦者募集!!

協賛企業様より
賞金提供有り

東日本大震災以降、まだ復興の道半ばにある東北に、新たな息吹を吹き込み、東北地域を活性化するため、明治維新150周年の本年、みちのくの大学が連携して実施する一大イベントが「みちのくイノベーションキャンプ2018」です。

東北の産業活性化・復興を目的に、各地域単独から脱皮し、東北地域の大学、行政、企業が連携して取り組み、みちのくから一大変革を起こします。

2018.11.2 fri - 4 sun

東北大学青葉山キャンパス内 青葉山 commons

(〒980-8572 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉 468-1)

主催／山形大学・東北大学

共催／(予定)弘前大学、秋田大学、福島大学、東北学院大学)

後援／(予定)文部科学省EDGE-NEXT、経済産業省東北経済産業局、

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、

一般社団法人東北経済連合会、独立行政法人中小企業基盤整備機構東北支部、

一般社団法人Mt.Fujiイノベーションエンジン、宮城大学、会津大学)

協賛企業様

シナプテック株式会社／

医療法人 おかもと腎クリニック／

株式会社菊池製作所／東英工業株式会社／

リゾートイン エルミタージュ

右記 Web サイトよりお申込み下さい。 <http://ur0.biz/LNDC>





目的に合わせて参加できる部門コース



みちのくイノベーションキャンプは、起業・創業、ビジネスの協創を目指す学生・研究者および事業の新展開を望むベンチャー企業の方のためのキャンプ式ビジネスプランコンテストです。

参加コースは、始動部門と協創部門の二部門です。

●始動部門：ピッチコンテスト

大学・研究機関等に在籍する学生、研究者を中心として、ビジネスアイデアを具体化させ、起業・事業化したい方を対象とした部門

■11/2～3：メンタリングおよび予選プレゼン

■11/4：決勝プレゼン、表彰(協賛企業様より賞金提供)

●協創部門：ビジネスマッチング

大学発ベンチャー、学内インキュベート施設に所属する企業、または、本キャンプに参加予定の大学と現在共同研究を行っている企業を中心として、大企業および地元企業と共同研究・開発、事業展開を狙いたい方を対象とした部門

■11/2～3：参加者・協創パートナー間でのディスカッション

■11/4：参加者によるプレゼン、マッチング

募集内容

対象者	■学生・研究者の方 ■起業・創業に関心がある方 ■起業・第二創業・新事業開拓をしたい方 ※個人参加・チーム参加可能
参加条件	■パソコンでの資料作成やメール連絡、データの送受信ができること ■キャンプまでにビジネスアイデアを組立て、口頭で発表できること ■宗教活動、政治活動を主たる目的とする個人・法人・その他団体、また暴力団もしくは暴力団組員の統制下にある個人・法人・その他団体に該当しないこと
応募受付期間	平成30年9月20日(木)～10月22日(月)

*参加費用は無料です。

*会場までの交通費、宿泊費、飲食費等は各自でのご手配と費用負担をお願い致します。

*希望者様は11/4 18時からのアフターパーティーにご参加いただけます。

別途会費が必要です。(4000円/人程度を予定しております。)

お問い合わせ先

山形大学国際事業化研究センター
みちのくイノベーションキャンプ事務局(担当:猪井、佐藤(英))

〒992-8510 山形県米沢市城南4丁目3-16

TEL: 0238-26-3480(代) FAX: 0238-26-3633

Mail: yu-edge@yz.yamagata-u.ac.jp

最新情報、詳細、お申し込みについては公式ウェブサイトをご覧ください。

<http://ur0.biz/LNDC>

平成30年（2018年）9月20日

「サイエンスリンク in 山形2018」を開催します

【本件のポイント】

- 子どもたちに科学の楽しさと不思議さを体験してもらう科学体験教室「サイエンスリンク in 山形2018」を今年も開催します。
- 子ども達の理科離れに歯止めをかけることを目的に、山形では平成28年（2016年）度から開催しており今年では第3回目となります。
- 山形大学SCITAセンター学生スタッフ、東北大学、NPO法人サイエンスリンク等がブースでの実験、サイエンスショーを実施し科学の面白さを伝えます。



【概要】

山形大学 SCITA センターでは、「やまがた科学の花咲く」プロジェクトで養成された『科学の花咲かせ隊』のサイエンスコミュニケーターと山形大学 SCITA センター学生スタッフが科学を通して地域との交流を積極的に行っています。

今回、学生達が「子ども達に大好きな科学の楽しさを伝えたい」という思いで、科学体験イベント「サイエンスリンク in 山形 2018」を企画しました。平成 28 年(2016 年)度から山形大学と他大学の科学啓蒙を行っている団体と合同で実施している科学体験教室で、今回で 3 回目の実施となります。小学生を対象に、今年も科学の楽しさ、不思議さを伝えます。例年それぞれのブースやサイエンスショーをやっていますが、今年のサイエンスショーはショーに加えお互いの大学のショーのやり方を評価しながら実施手段を共有して、お互いに切磋琢磨しようとする新しい試みも実施します。

【講座内容】

- 開催日時 : 平成30年10月13日（土） 10時～17時頃
開催場所 : 山形大学小白川キャンパス 体育館
講座内容 : 参加者に各ブースや、サイエンスショーで科学体験をしてもらいます。
- | | |
|------------------|---------------------|
| ・SCITAセンター学生スタッフ | : プラ板 |
| ・NPO法人サイエンスリンク | : くるくるキラキラステンドグラス |
| ・東北大学 | : ストロー笛 |
| ・東京工業大学 | : 分光器 |
| ・東京大学 | : 科学のちからででんきをつくろう 他 |

- 【申込方法等】 直接会場にお越しください。
参加料 無料

※ 山形大学 SCITA センターは、理科学習の普及活動を促進するための本学独自の「やまがた未来科学プロジェクト」に基づき、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材を育成する目的で設置されました。小学生から大人まで、全県民を対象に開催する体験型の科学実験教室プログラムイベントを提供して昨年は約10,000人の方に参加いただきました。

※ この事業は、平成30年度「やまがた若者チャレンジ応援事業」の支援を受けて実施するものです。

お問い合わせ
山形大学SCITAセンター（棚井）
電話 023-628-4517

今年も開催！

サイエンスリンク in 山形 2018

**参加無料
予約不要**

**2018年 10月 13日
10:00~17:00 (16:30)**

山形大学小白川キャンパス

【出展団体】

**山形大学 SCITA センター学生スタッフ
SCITACenter@米沢**

NPO 法人サイエンスリンク

東北大学理学研究科・理学部広報サポーター

東工大 ScienceTechno

山形県立東桜学館高等学校

東京理科大学 chibi lab.

東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST



【お問い合わせ先】

山形大学 SCITA

TEL : 023-628

<http://www.yamagata>

♪小さなお子様は保護者同伴

主催：山形大学 SCITA センター学生スタッフ

後援：山形市教育委員会

協力：東北大学大学院理学研究科

NPO 法人サイエンスリンク

平成30年（2018年）9月13日

地域教育文化学部ホームカミングを開催します。

【本件のポイント】

- 山形大学地域教育文化学部の前身である教育学部卒業生を対象に、現在の地域教育文化学部の様子を紹介し、交流を図ります。
- 地域教育文化学部同窓会主催の母校創立140周年祝賀行事と同時開催。



【概要】

地域教育文化学部ホームカミングを開催します。ホームカミングは、卒業生に学部・大学院の現在を知っていたき、大学と卒業生との連携強化を図ることを目的に実施するものです。

平成30年10月8日に執り行われる、地域教育文化学部同窓会主催の母校創立140周年祝賀行事の開催に合わせて開催し、同会場ロビーにおいて、地域教育文化学部の学部案内や学部広報誌などを配布し、交流を図ります。

地域教育文化学部ホームカミング資料展示会

日時：平成30(2018)年10月8日（月・祝）10:00~13:30

場所：ホテルキャッスル3F ロビー

内容：資料展示

- ・ 山形新聞コラム「地域×学び」「地域と学ぶ」
- ・ 学部案内
- ・ 広報誌「教育学部だより」他

お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス事務部総務課学部総括担当（地域教育文化学部）

TEL 023-628-4304 メール kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学地域教育文化学部ホームカミング 資料展示会

日時：平成30年10月8日（月）10:00～13:30

場所：ホテルキャッスル3階ロビー

内容：

資料展示

- ◆山形新聞コラム「地域×学び」「地域と学ぶ」
- ◆学部案内
- ◆広報誌「教育学部だより」 他



同窓会記念式典会場のロビーでの
同時開催となります。

お問い合わせ先
国立大学法人山形大学
小白川キャンパス事務部総務課
学部総括担当（地域教育文化学部）
電話：023-628-4304
E-mail：
kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

地域から世界へ広げる
産学官金連携イベント
第4回

アルファ化米粉 レシピコンテスト

アルファ化米粉を使った料理を考えてレシピコンテストに挑戦しませんか？

山形大学の西岡研究室ではアルファ化米粉の研究をしています。

アルファ化米粉は水を加えるだけでネバネバして、炊かなくても食べられる特殊な米粉です。

～コンテスト本選(調理・試食)～

日時：平成30年12月1日(土)

会場：山形県立米沢栄養大学

アルファ化米粉を使ったユニークなアイデアレシピを
お待ちしております！

最優秀賞7万円
優秀賞5万円
優良賞3万円

～応募方法のお知らせ～

下記の窓口まで応募用紙をメールまたは郵送にてお送りください！

応募用紙はチラシの裏面をご利用いただくか、

<http://cisweb.yz.yamagata-u.ac.jp/~alpha> (またはQRコード) の
ホームページから、ダウンロードしてください。

E-mail) a-rice@yz.yamagata-u.ac.jp

郵送先) 〒992-8510

山形県米沢市城南4-3-16 山形大学工学部 西岡研究室

宛先) アルファ化米粉レシピコンテスト担当

応募×切 10月29日(月)必着!!

応募条件 アルファ化米粉を使用して下さい。
小麦粉は使わないで下さい。

応募資格 高校生以上



審査方法

書類審査によって、本選へ進む作品を複数選出します。

書類審査の結果はメールでお知らせします。審査基準についてはHPをご参照ください。

なお、本選に進んだ作品は、実際に調理していただき、試食審査を行います。

主催：AFTEC (先端フードテクノロジー研究開発拠点)、山形大学 (工学部・国際事業化研究センター・有機材料システム事業創出センター)、山形県立米沢栄養大学、株式会社アルファテック、株式会社はつらつ、米沢信用金庫

後援：山形県、山形県教育委員会、米沢市、一般社団法人米沢工業会

協賛：株式会社セイシン企業、株式会社セゾンファクトリー、

株式会社ベーカリー中村屋、ぼんち株式会社 (50音順)



第4回 アルファ化米粉レシピコンテスト 応募用紙					
お名前	フリガナ		性別	生年月日	グループの場合 合人数
	氏名				人
ご連絡先	住所				
	電話番号		携帯番号		
	e-mail				
ご職業 (学校名)					
書類審査を通過した際に、コンテスト本選に参加することができる（旅費はご自身でのご負担になります）。					はい いいえ
応募作品（レシピ）の使用権や、Web、マスメディア、紙媒体などによる公開に関する権利は主催者に帰属することに同意する。					はい いいえ
レシピ名					
レシピのポイント					
材料および分量 (アルファ化米粉を使用してください。小麦粉は用いないでください。)				費 用	
				人 分 約 円	
				調理時間	
				約 分	
調理手順					
料理の完成写真を添付してください					

・上記の情報が不足なく記載されていれば、この用紙を用いなくても構いません。

・いただいた個人情報などを、本人の同意なく、本レシピコンテストでの利用目的以外には使用しません。